

Contents 〈ブリッジ vol.58 目次〉

【連携医の声】 なかた整形外科クリニック 中田和男 院長 … 1

【コラム 向洋の丘】 副院長 前田博敬 … 2

【特 集】 新しい医療機器を導入しました … 3

【クローズアップ】 緩和ケア研修会を開催しました
ふれあい看護体験 … 4



○発行○ 2012(平成24)年10月22日 / 下関市立市民病院広報年報委員会

連携医の 声

なかた整形外科クリニック

院長 中田和男 先生



下関市立市民病院の皆様方には、平素より大変お世話になっております。患者様をご紹介すれば、初診時、術後、退院時と主治医の先生からお返事をいただくばかりか、地域医療連携室からも別途入退院のご連絡をいただき大変感謝しております。救急患者様の紹介も、いつも速やかに対応していただき、聞けば救急専門医の先生も複数いらっしゃるのとこのことで、下関市民や開業医の我々にとっても大変心強い限りです。

当院は、旧市内、上田中町二丁目にあります。高齢の患者様がとても多い地域です。当院の駐車場にある車よりも、シニアカーや傘立てに入っている杖の数の数の方が多きことはしばしばです。当然ながら、変形性関節症や骨粗鬆症の患者様がたくさんいらっしゃいます。特に、骨粗鬆症は症状的に目に見える部分は少ないのですが、ひと度大腿骨頸部骨折などが起これば寝たきりになる等著しくADLを損なうことが知られています。患者様にはことある毎にその治療の必要性を説明しておりますが、まだまだ十分には理解を得られていないのが現状です。病診連携ではこのような身近で地道な医療は我々開業医で、入院、手術が必要になれば総合病院で医療をするというのが基本になるのではないかと考えています。

最近、入院、手術を依頼、ご紹介した患者様の御家族が「良い先生、良い病院をご紹介いただきまして本当にありがとうございます」と、お礼を言いに来られることが何回もありました。私としては紹介状を書いただけなのでただ恐縮するばかりですが、貴院の誠実で親身な対応に感謝されているのだと思います。どうぞ、今後ともよろしくお願い致します。

患者様のご紹介・検査予約・お問い合わせは
地域医療連携室へ ☎ 083-224-3860 Fax 083-224-3861



「記者会見シミュレーションを終えて」

法人化後半年を経過し、当院は今後ますます様々な面で自立することが求められています。中でも、医療事故への対応は安全管理の面から最も重要であり、ひとたび医療事故が起これば過失の有無に関係なくマスコミ等から取り上げられ、その対応如何によっては住民の皆様や患者様に誤解を与えかねません。一方、テレビでは毎日のように記者会見の様子が流されていますが、この時の印象が与える影響は非常に重大であり、その後の対応を大きく左右するといっても過言ではありません。

そこで、9月8日(土)、当院病院幹部と医療安全対策室員約50名を対象に、適切に記者会見を乗り切るための技術を会得するため、初めて本格的な「記者会見シミュレーション」研修会を行いました。研修は、「医療事故発生時の対応」に関する講義や、講師の先生が勤務されている病院での記者会見シミュレーションのDVD鑑賞、5つのグループに分かれて記者会見の準備、即ちポジションペーパー作成・Q&Aシート作成など楽しい雰囲気で行いました。

仕上げは2つのグループで行った記者会見ロールプレーです。ロールプレーでの各人の役割は、院長役・安全管理部長役・事務長役(記者会見の司会役)・記者役・カメラマン役・野次役です。冷静に受け答えする役者、この際とばかり日頃の鬱憤をはらす野次役、その野次に丁寧に答える院長役など、様々な場面と人間性を楽しめましたが、合格点とは言い難いようでした。

記者会見が映像で流れる場合、視聴者に好感を持ってもらう態度が必要です。講師の先生が強調されたポイントは以下の3点でした。

- ① 表情：歯を見せてはいけない。笑っているようにとられ軽薄な印象を与える。
- ② 態度：ゆっくりとした動作は優雅さと落ち着いた雰囲気を醸し出す。
- ③ 姿勢：背筋は伸ばして正しい姿勢を取りましょう。

初めての記者会見シミュレーションを終えて、出席者は、少なくともポジションペーパーの作成、会場の選定とセッティングといった基本となる記者会見の準備がいかにか大変か理解できたようです。練習という潜在意識が故に緊張感が足りない一面もありましたが、記者会見のイメージ作りができた有意義な一日だったと思っています。

循環器内科からお知らせ

循環器内科部長 金子武生

前回、心臓の血管造影装置更新のため、検査ができない旨をお知らせしました。

急患受け入れの制限をすることとなり、大変ご迷惑をおかけして、申し訳ありませんでした。おかげさまで10月1日に、新しい装置が入りました！東芝製の最新鋭機で、画質が格段に良くなっています。他にも

- ① 同じ造影室で下肢動脈造影ができます
- ② 冠動脈造影も同時に2方向撮影が可能で、造影剤が節約できます
- ③ ステンットの視認性が良くなり、被ばく量が減らせます

など、患者さまにとってもメリットが多数あります。9月に導入したシンチグラムも画像が鮮明となり撮像時間も短縮しています。心筋血流シンチでは、以前はお願いしていた絶食も不要となりました。冠動脈CTも引き続き行っております。急患でも、胸部症状が少し気になる患者さまでも、パワーアップした当院循環器内科にご紹介ください。

【次のページでも紹介しています！】



新しい医療機器を導入しました！

新しい設備の導入によって、入院、外来の患者さまにより質の高い医療の提供を目指しています。開業医の先生方からのご依頼もお待ちしております。

■ 核医学検査装置

GE独自の画像処理用ソフトウェア「Evolution」を搭載しており、短時間撮像・高速画像再構成・最新の収集データ解析が可能になりました。

心臓検査では、血流異常だけでなくポンプ機能としての心臓の働きを解析する事が可能となり、1度の検査で多くの診断情報が得られます。脳血流検査では従来のSPECT断層像による診断の問題点を解消するために考案された3D-SSP解析が加わり、認知症診断の早期発見と鑑別診断に有用です。腫瘍の全身検査から脳血流、心筋血流解析などの所要時間を短縮でき、患者さまの負担を軽減することができます。さらに、同時に導入されたワークステーションにより、核医学検査の断層像とCTやMRI断層像を3次元的に自動で重ね合わせる機能があり、腫瘍などの正確な位置確認を行うこと

により的確な診断を実現します。



■ 血管造影装置

この装置の主な特徴は独自の画像処理機能（Pure Brain）により、動きによる残像のない透視画像となり、心臓を始めとする動きの早い部位でも、ステント内腔やガイドワイヤーなどの細かな対象を鮮明に観察でき、より正確な診断に貢献します。

5軸回転機構を搭載した床置きCアームは、動作範囲が大きく、頭部から足先まであらゆる血管の検査・治療を寝台を移動させることなく手技の多様化を実現しました。さらに、Stepping DSA・バイプレーン機能・平面検出器（FPD）・3D撮影などの機能を駆使し、検査時間の短縮・被ばく低減・高画質な画像提供をいたします。患者さまのために、最大限に威力を発揮させ医療の質向上に繋げていきます。



※その他にも、血液検査システム（写真左）、CT（写真右）を更新しました。

※X線一般撮影装置（FPD）の更新も予定しています。医療機器の更新情報は、順次お知らせします！



CLOSE UP!

第4回がん診療に携わる医師に対する 緩和ケア研修会を開催。



当院では、8月25日（土）、26日（日）の2日間、13時間にわたる緩和ケア研修会を開催しました。

2007年のがん診療対策推進基本計画で、全てのがん診療に携わる医師が研修等により緩和ケアについて基本的な知識を習得することが目標として掲げられました。これに従い、2008年厚生労働省健康局通知「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」が出されました。本研修会はこの指針に沿ったものであり、討論やグループワーク、ロールプレイからなる参加型の研修会です。ご参加いただいた先生方、ご協力ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

今回の研修では、下関市でがん診療の最前線で活躍されていらっしゃる開業の先生方や、済生会下関総合病院や本病院に勤務の先生方の計13名が受講されました。参加された先生方の診療のお役に立てる内容であったと自負しています。また、この研修会は、PEACEプロジェクトとして全国的に展開され、山口県では県と県医師会の共催、各がん診療連携拠点病院で開催されています。がん診療に携わる先生方に広く参加していただけるよう、本病院では内容をさらに充実させ今後も開催してまいります。がん診療に携わる多くの先生方のご参加をお待ち申し上げます。

将来の夢は看護師！「ふれあい看護体験」

今年で22回目を迎えた「ふれあい看護体験」。今年も、8月7日に開催しました。

市内の小中高生10人が、白衣を着て看護師の仕事を体験しました。院内見学や、AED操作、血圧・体温測定などさまざまな体験をした参加者の一人は、「大変な仕事だけど看護師になるのが夢。勉強になった」と話してくれました。



編集後記

秋も深まってまいりました。地方独立法人化され下関市立市民病院と名を変え半年が過ぎました。「救急科が新設され頑張っている」というお褒めの言葉をいただき、うれしい反面、まだまだ目に見える改善がなされていないという厳しいご意見もあります。市民の皆様や連携医の先生方から高い評価を受けるよう職員一同頑張っていきますので、今後ともご支援ご協力よろしく申し上げます。

地域医療連携室長 坂井 尚二



地方独立行政法人
下関市立市民病院
SHIMONOSEKI CITY HOSPITAL

TEL : 083-231-4111 FAX : 083-224-3838
E-mail : info@shimonosekicity-hosp.jp
ホームページ : <http://shimonosekicity-hosp.jp/>